

日本洋書協会会報

BULLETIN OF JAPAN ASSOCIATION
OF INTERNATIONAL PUBLICATIONS

目次

2000年度定時総会	1
委員会報告	2
海外ニュース	3
大学入試こわくない?	4
新・パソコン外論考(其26)	5
出版文化史遺産(68) 洋書の歴史雑記帳(XXIII)	6
Joyceの発音は「ヂュオイス」	7

2002年度定時総会

2002年度定時総会は5月17日午後3時より、熱海市
ホテル・ニューさがみやで開催された。

〔出席状況〕	出席	25社
	委任状	35社
	計	60社

正会員71社に対して過半数の出席を得たので、協
会規約第5章第30条に基づき総会は成立した。

高橋事務局長の司会により開会、先ず事務局長より
2001年度中の会員の動向が報告された。

議事に先立ち、鈴木理事長(丸善)より次のような開
会挨拶があった。

《要 旨》

『日本経済が低迷する中、競争要件、為替と国内価格
など様々な問題をかかえながら、我が洋書協会の一年
間には大きな問題はありませんでした。これは会員各
社の日頃の仕事が堅実であり、情報交換や協力の実が
上がっていること、それを基盤として協会の運営がし
っかり出来たことに因ると言えます。』

右肩上がりの20世紀が終わった後の行き方として、
基本的には争う主体の数を少なく、しかしその単位は
大きくしようとしています。洋書業界ではその動きは
これからでしょうが、皆様方の今後のご計画の中にこ
れまで培ってきた相互の親密な関係をお役立ていた
だくことによって、この協会の存在が活きてくるのでな
いかと思います。』

続いて戎井理事長代理(丸善)より理事会活動全般の
報告、更に各委員会委員長より2001年度中の活動報
告と2002年度の活動計画の発表があった。

議案審議〔議長：鈴木理事長〕

【2001年度決算報告】

大倉総務委員長(洋販)の内容説明の後、東條監事
(南江堂)および平岩監事(アカデミア・ミュージック)
より監査報告があり、採決の結果2001年度決算は承
認された。

【2002年度予算提案】

大倉総務委員長の内容説明の後、採決の結果2002
年度予算は可決・承認された。

以上ですべての議事を終了し、渡辺副理事長(洋販)
の次のような閉会の挨拶を以て2002年度定時総会を
閉幕した。

《要 旨》

『昨今のように激しく、急速にビジネス環境が変化す
る時代にあつてこそ、会員相互が密に情報を交換し、
智恵を出し合い、出来るところは協力し合うことが求
められます。ここへ来て、そのような気運が業界の中
に出てきたのはたいへん喜ばしいことです。』

歴史を振り返ると、遣唐使の時代から鎖国、幕末・
明治維新、第2次大戦後と、時代の節目には「洋書＝
海外出版物」が大きな役割を果たしてきました。21世
紀に入って、ますます日本の国際化が求められている
時、海外に情報を発信し、自己主張を図る媒体として、
洋書の役割は終わらないと確信しています。会員の皆
様のさらなるご健闘をお祈りします。』

なお、本総会に併せて催した旅行会には22社・34
名が参加した。

委員会報告 <広報委員会>

ヴァチカン^{教皇庁}図書館展

書物の誕生－写本から印刷へ

去る5月24日(金)午後4時から6時まで、トッパン印刷の創業100周年を記念して文京区水道に設立された印刷博物館で開催中の「ヴァチカン教皇庁図書館展」の見学会を行った。会員各社からの参加者36名は特別に館内のグーテンベルグ・ルームに通され、星野副館長と宗村学芸企画室長のご挨拶並びに同博物館の設立趣旨、特徴などを拝聴した後、お二人の先導で先ず常設館を見て回った。続いて「ヴァチカン教皇庁図書館展」では、学芸員の懇切丁寧な説明と共にローマ法

王秘蔵の貴重書の数々を目の当たりにしながら、西洋の書物の誕生と歴史を勉強した。短時間ではあったが、企画展のキャッチフレーズである「書物の誕生－写本から印刷へ」はもとより、我が業界の取り扱い商品である洋書の原点に触れることができ、今後ますます私たち業界の果たすべき役割の大切さを改めて認識される有意義な見学会となった。

(委員長 清水弘文)

委員会報告 <ホームページ・ダイレクトリー委員会>

ウェブ名簿英文版完成

協会ホームページ会員名簿の英文版が完成しました。JAIP members listをクリックしてみてください。海外からのアクセスに耐えうる最低限の項目を英文化しました。一層充実した内容に行きたいと思しますので、ご意見、ご提案を忌憚なくお寄せいただければ幸いです。

なお、会員情報メンテナンス専用のパスワードを新たに設けます。只今システムの改変を進めていますので、作業完了次第あらためてご案内いたします。

(委員長 山川隆司)

委員会報告 <文化厚生委員会>

キス釣り大会

<JAIP釣り同好会>

5月25日(土)、待ちかねていた今年初の釣りが大会が開催されました。場所は茅ヶ崎港、船は一俊丸です。天気は予報どおり快晴、波も穏やかで13名の参加者もひとまず安心。ここ最近、数は釣れていると船長の話。初参加者二名の方を含め全員胸躍らせながら7時半の出船を待っています。キスは砂地の海底にいますので、港から15分位の所が釣り場となります。

釣り場に着く間、仕掛けの準備をしたり、もうハリに餌の青イソメをつけて待っている人もいます。船の速度が留まり、船長が魚探で探り始めるとそろそろで

す。そして船長の「とうぞ」の掛け声で全員一斉に糸を垂らします。船の真下に糸を垂らす人や、5mから20m先に投げて海底を探りながら引き寄せて釣る人など様々です。

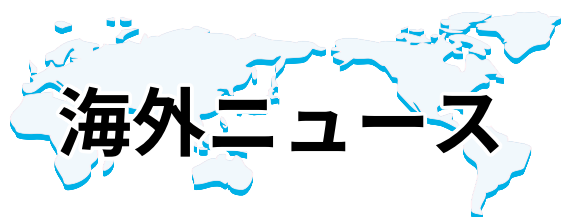
今回の順位の決め方は数量ではなく、釣れた中から5匹をピックアップして、総重量で争う大会なので、あせる事もなく、初心者の人でも優勝できる可能性があります、のんびり釣りが楽しめたのではないのでしょうか。そうこうしていると2時頃から風が強くなり、波も高

くなってきたので残念ながらしぶしぶ納竿となりました。優勝は教文館の吉野さん、2・3位は大洋交易の広瀬・半田さん、4位は太陽図書貿易の小松さんという結果になりました。

次回は7月27日(土) [場所は今回と同じ、魚は未定]の予定となっております。

釣りは楽しくて、すべてを忘れさせてくれますよ！皆さん奮って御参加ください。

(大洋交易側) 塚本記



◆カナダの書店とAmazonの闘い

National Postによると、カナダの書店はAmazon.comがカナダ市場に参入することを防ぐ動きをみせている。カナダ書店協会(Canadian Booksellers Association)はSheila Copps文化相に文書を提出し、Amazon.comのカナダ進出は「長い目で見て消費者に不利益をもたらし、カナダにおける、あらゆる地域の書籍産業を荒廃させる」と主張した。カナダ政府の法制では、書店はすべてカナダ国籍人によって運営されねばならず、市場参入のためにはカナダ企業をパートナーにすることが義務づけられている。しかし業界では、Amazonはカナダ企業と提携して年内にでも子会社を設立するという噂がささやかれている。

the Bookseller. com, MAY 29, 2002

◆Amazonカナダ6月25日オープンか？

カナダの全国紙Globe and Mailおよび書評紙Quill & Quireによると、Amazon.comはカナダ版ウェブサイト6月25日オープンする計画とのこと。未確認情報だが、ヴァンクーヴァーのRaincoast Booksの子会社BookExpressとカナダ郵便局が、カナダ基盤の企業

との提携が義務づけられているAmazonのサイト開設を支援すると言われている。また一方では、提携ではなく「直接販売契約」という情報もある。Amazonにおける総売上高の3分の1はフランス、ドイツ、イギリス、そして日本など海外顧客によるもので、これら各国にはすでにAmazonのサイトが存在する。カナダにおける競合関係は限られたもので、統合が進んだ結果、カナダ国内の有力オンライン書店は一家(www.chapters.indigo.ca)のみである。オンライン販売による売上は、年間約3千万カナダドル(2千万ドル)にのぼる。今回のAmazon進出について、関係各社はすべてコメントを避けている。

PW Daily, JUN 03, 2002

◆ニューヨーク McGraw-Hill 書店の閉店

ニューヨーク(マンハッタン)のビジネス書専門書店McGraw-Hill Bookstoreが、6月14日で閉店する。インターネット書店との競合と同時に、ビジネス書に対する需要の減少が主な原因となった。広報担当者Ms. April Hattoriは「技術者向け書籍に対するオンライン経由の需要が増加したことで、現実の書店が必要なくなった」と述べた。1960年創業の同書店は、ロックフェラー・センターに12,000平方フィートもの広い面積を持つ地上店で、地下鉄の入口にも隣接している。名称こそMcGraw-Hillとなっているが、あらゆる出版社による書籍35,000タイトルを在庫し、東海岸で最も包括的な技術書の品揃えを誇っていた。同店は従業員19名を擁していた。

PW Daily, MAY 31, 2002

大学入試はこわくない？

渡辺 治

12月中旬のこと、ところは高校の職員室。2学期末試験の終わった3年生のAが部屋に駆け込んで来て、採点中のS先生に話しかける。

「先生、先生。オレ大学へ行く。〇〇大学を受験する。英語があるんだって。何勉強すればいい？ 参考書教えてよ。」

「お前、専門学校じゃなかったのか。」

「だって、みんな大学へ行くって言うてるんだもん。オレも行ってえ。」

「お前が大学かあ？」と先生はしみじみ生徒の顔を見上げる。「だから前から先生がもっと勉強しろと言ってたんだ。まあいい。勉強はいつ始めてもそれなりに意味はある。いいことだ。」

「でしょう、先生。」

「それにしても〇〇大学はお前には無理だ。10年かかったって入れはしないだろうよ。」

「そりゃないよ、先生。じゃあ、オレが行けるところ教えてよ。」

「どれどれ…」と先生は大学入試資料を取り出し、△△大学を勧める。最初は「そんな大学知らねえよ。」とか「もっと有名なところはないの？」とか、ぶつぶつ言っていたAだったが、先生のていねいな指導を受け入れ、△△大学を含めて3カ所程の大学名をメモし、英語の参考書を推薦してもらって部屋を出て行った。

年が明けて2月末、Aがまた飛び込んで来た。

「先生。オレ受かった。△△大学。」

「そうか、A。そりゃよかった。やったなあ。」

と先生もうれしそうだ。

この先生、教えている教科は英語だが、同時に進路指導主任。「現役合格」をモットーに、生徒の進学の相談に応じている。大声の割には生徒にやさしく的確な進路指導に定評があり、生徒の信頼も厚い。3年の担任には手に負えないような生徒の指導を進んで引き受けている。

ごく普通の高校でごく普通の光景だが、この生徒Aは普通とは言えない。1年生の頃から、欠席や遅刻が多く、服装や喫煙など校則に触れる問題を次から次へと起こしてきた、いわゆる問題児である。そんな調子

だから成績も振るわず、まさに低空飛行。卒業させてもらえるだけでもありがたいと思わなければならないところだ。その生徒が12月頃から形ばかりの受験勉強をして受験し、合格したのだ。「このごろはこういうことはよくありますよ。欲ばらなければビリの生徒でも引き受けてくれる大学があるんです。いい時代になりましたよ。」とベテランS先生。「Aのような生徒は浪人してレベルの高い大学を目指せと言っても無理です。浪人しても勉強しません。大学に入っても勉強はしないでしょけど。」と笑っている。

高校時代にまったく勉強せず、大学に入っても勉強する見込みのない生徒を大学が受け入れているのだ。4年後には卒業もできるだろう。バブル時代に雨後のタケノコのように全国に設立された大学は少子化の波を受けて、学生の確保に苦勞しているようだ。中には外国人の留学生までほとんど無審査で受け入れているところがあるというニュースも耳にする。学生は経営上の客であって教育訓練を施す対象ではないと見える。

学級崩壊、学校崩壊、学力低下などと日本の教育界にはセンセーショナルな言葉がたびたび飛び交う。教育の問題を社会全体の問題として捉えて根本から改革し、明日の日本を託せるたくましい日本人を育てるために取り組むべき課題は山ほどある。その一つとして、大学教育のありかたについて考えてみたい。高等学校が準義務教育化している現在だが、「大学」は勉強する者が集まって学問をするところ、知的訓練・精神的鍛練の場でなくてはならない。卒業後ただちに社会の第一線に出て社会をリードして行くための、知識や覚悟のない中途半端な学生は卒業させるべきではない。そういう大学教育のシステムが構築され、大学教育のきびしさについての情報が浸透すれば、高校からはそれに耐え真剣に勉強する生徒だけが入って行くようになるはずだ。社会で求められる人材が集まっているとなれば就職口の斡旋に心配することもなくなる。大学入学のハードルは高くてもよい。こういう改善ができれば高校だけでなく中学校や小学校への波及効果も期待できよう。高校卒業後「大学」に入れない者やすぐに就職したくない者には職業訓練などを目的とする別の教育機関を用意することになるが、それはまた別の課題である。

(私立高校英語科講師)

新・パソコン外論考 (其26)

宇田川一彦

◆On a slow boat to China／のんびりと汽船に乗って中国へ

子曰、君子病無能焉、不病人之不已知也、

The Master said, "The gentleman is troubled by his own lack of ability, not by the failure of others to appreciate him."

(論語／衛靈公・Confucius; The Analects/Book XV)

【超拙意訳；「紳士は、自分の才能の乏しいのを病(うれ)うが、他人が自分を評価しないことには気かけないものだ」と先生は言われました。】

【外注；「自分を他人が認めないことは気にするな。自分の能力のないことを気にせよ」という章は、本章の他に、『学而篇・里仁篇』にも同様な教を説いています。】

★Internetについて【博物館番外編1】

思い切って4泊5日で、香港(Hong Kong)に出かけました。香港再訪は、実に1969年以来ですから、33年振りです。ホテルも九龍側の33年前のところ(香港凱悦酒店 Hyatt Regency Hong Kong = <http://www.hongkong.hyatt.com>)、航空会社も Cathay 航空と希望の予約切符が取れたのも思い切った一因です【ホテルは、モデム端子付(PC等は電圧220V/50Hzなので要変換器)】。まあ、お金に糸目をつけないのなら、米国大統領御用達の「君悦酒店(Grand Hyatt)」(Websiteは、Regencyと同様)とか、「半島酒店(The Peninsula Hong Kong = www.peninsula.com)」とかで、優雅に Afternoon Tea でのんびり香港を満喫したいのですが、1泊約4乃至5,000香港\$ (1HK\$: 約16-17円)を覚悟しなければ…。ホテル脇の銀行ではなく町の両替屋で、negotiationして両替した金額が上述したものです。

すごいのは、銀行券が3行6種 = 10 / 20 / 50 / 100 / 500 / 1000 HK\$ = 計18種類(香港上海滙豐銀行有限公司: The Hong Kong and Shanghai Banking Corp, Ltd. 香港滙打銀行: Standard Chartered Bank・中国銀行: Bank of Chinaの3銀行が各自に発行)の札と10 / 20 / 50centに1 / 2 / 5 / 10\$のcoinが、存在するのです。銀行券には、ちゃんと"Promises

to pay the bearer on demand at its office here xxx Dollars"と刷り込んであるのです。日本銀行券1種で生きている筆者にとっては新鮮に見えました(現在の日本銀行券にはかかる文句は…)。

治安は◎です。盛り場等々にはやたらに「警察官(女性も多い)」の姿が見えます。路が分からなくなったときに、女性警察官に英語で聞きましたら、ちゃんと英語で答えて教えてくれました。Tramとtaxi(的士)では英語は、33年前より以外と通じません。行く先を漢字で書いた方が通りがいいようです。(この手は、香港大学に行くときに使用済)。

で、前段が長くなりましたが、香港大学美術博物館等々感激物でした。まず、香港大学美術博物館(UMAG: University Museum and Art Gallery, The University of Hong Kong)のWebは<http://www.hku.hk/hkumag>、e-mailは、museum@hkusua.hku.hkです。場所は、香港島の大平山(Victoria Peak)の中腹に存します。香港最古の美術博物館(創立は1953年)です。因みに、大学は昨年が法例成立90周年で、大学本部落成運用90周年が本年。

この美術博物館でのお目当ては、唐代の(Tang dynasty, 618-907)『釉裡藍水注(Water pot with underglaze blue)』、高さ6.5cmの小さな水差しでした。釉(うわ)薬をかける前の、下塗のblueの色が何ともいえない物でした。もう一つも小さなもので、直径8cm象牙の清朝中期(Mid-Qing dynasty)のボール『鏤×福寿寶相花紋十一層象牙球(Ivory ball of eleven concentric layers)』が、小さいながら印象に残るものでした。付いていた説明の1字×(彫の字に似たもの)は、読めない字でしたが、どうやって彫ったのだろうかと、溜息が出るものでした。

この他にも、唐代の「青磁器」や清代の「絵画(水墨画的なもの)」、インドの仏像から現代の油彩画まで豊富なCOLLECTIONです。また木彫りの飾り額や明朝の家具や水差し等々、一日かけてゆっくり見たいものです。でも、大変小ぶりな美術博物館で、2時間あれば十分。後はキャンパスの散策と、隣接の茶房で中国茶でも楽しめば、InternetのHPでは味わえない至福の時間が過ごせます。次回他の博物館siteの紹介や骨董・印鑑店や学習塾等々、またNetや電話のInfra-structure話をと考えています。

乞御期待。

洋書の歴史雑記帳〔XIII〕高野長英と洋書(4)

鈴木 陽二

◆「蛮社の獄」前後の洋学事情(2)

前回に続いて鍋島家蘭書目録について説明したい。それにしても、一つの藩が732部という大量の洋書(蘭書)を収集し得たことに驚きを感じるのだが、兵書の部を見ていると、国防に危機感を募らせていた時代の空気を強く感じることができる。翻訳されたものを中心に二三紹介してみることにしよう。

高野長英がプロシャの兵学者ブランド、やはりプロシャ人デッケルの著書の蘭訳本をそれぞれ『三兵答古知機』『埵氏三兵答古知機』として訳出したことは前回触れた。この原書のほかに、幕府開成所教授で榎本武揚と共に函館戦争に参加し、のち明治政府の高官になった大鳥圭介がオランダ人ペルの築城書を訳した『築城典刑』(1860―万延元年)、このペルの書は福沢諭吉も『ペル築城書』として訳している。また大村益次郎がクノープの戦術書を訳した『兵家須知戦術入門』(1864―元治元年)、西村茂樹(洋学者・啓蒙思想家)がエンゲルベルトの海岸防御に関する書を訳した『海防要論』(上同年)などの原書がこの目録にリストされている。上記はいずれも訳書が数種類発行されていることから、この時代に広く読まれ、各藩の軍制刷新や海防の範典となった兵学書だったことが分かる。さらに和訳されなかったが、江川太郎左衛門が幕府の命で品川に台場を築いたとき参考にしたサファール『築城原理』などもこの目録に見られる。

幕末の大野藩も洋学に熱心な藩だった。大野藩は織田信長の側近武將金森長近が所領を得て居城と城下町を建設したときに始まり、その後徳川幕政下で幾度か藩主の交替が行われた後、譜代大名土井家が4万石で入封し明治維新まで領治した中小藩だった。

大野藩7代目藩主利忠は藩財政改善への新しい道を探るため、自ら蘭学を学んだという。また藩医を大阪の緒方洪庵や江戸の杉田成卿に入門させて蘭学を学ばせた。さらに洪庵の適塾で塾頭を務めた長州の伊藤慎蔵を招いて蘭学所(洋学館)を設け蘭学の普及を図ったが、やがて洋学大藩としての名声が高まった。藩土には高島流砲術を学ばせ、銃砲の購入や製造まで行い、藩の軍事組織も洋式軍制へと改編した。函館戦争では明治新政権の命で戦闘に参加し、五稜郭攻略で戦果を上げたという。安政五年には、当時最新鋭の洋式帆船

大野丸を建造し、諸物産の交易を盛んにした。利忠が藩主を継いだときには実高1万2〜3千石にしか過ぎなかったという氣息奄々とした貧窮藩が、こうして山間の雄藩へと変ぼうしたのは英邁な利忠の才覚だった(三上一夫「大野藩」『新編物語藩史』)。

越前大野を訪れたのは10月末だった。美濃白鳥からバスで油坂峠を越え、九頭竜湖沿いに越美北線の九頭竜駅へと続く道はただひたすら紅葉で、強烈な色彩の連続に疲労感を覚えたものだった。越前大野はいまでも城下町の風情を色濃く残している町で、そここに武家屋敷や古い町並みが見られる。そして、それら中心域を多くの寺が囲んでいる町の構造は、外敵に備える配置だったといい、通りに沿って長く続く塀は石垣と黒っぽい下見板に白漆喰の壁、それに瓦をおいた堅牢なものだが、その色調は寺町のすがすがしいただずまいを醸し出している。近くの町屋の古い家並みを残す七間通りには、長近の時代に始まったという400年の歴史をもつ七間朝市が、冬場を除いて毎朝開かれてにぎわう光景にも、古い城下町の営みが今も息づいているのを感じることができる。

横道にそれたが、旧大野藩が収集したという洋書(蘭書)が福井県大野高等学校蔵書目録として残されているが、その目録には洋書が54点、翻訳和書17点がリストされている。そのうち兵学書の13点は、今まで見てきたいくつかの洋書目録にも収録されており、長英の訳した『三兵答古知機』、小関三英が訳した『山砲略説』、ロシア人オコウネフから西川貫蔵が訳した『三兵用訣精論』(1856―安政3年)などの原書が見られる。しかし、大野藩の幕末における海外学術摂取の上での貢献は、洋書を収集したというばかりではなく、その翻訳・出版にもあった。幕府天文方が多数かかわって翻訳した『海上砲術全書』(カルテンの砲術書)、『海上砲具全図』、伊藤慎蔵によるケルクワイクの築城論の訳で『築城全書』(1859―安政6年)、同じ伊藤の訳で航海術を論じた『颶風新話』(1857―安政4年)、その他多くの兵学書・海防書の出版を積極的に手掛けた。〔参考文献:「福井県大野高等学校蔵書目録」『科学史研究』第22号／『洋学二百年記念展』目録／『洋学ことはじめ展』目録〕

(元丸善・本の図書館長)

大学のキャンパスでは、いろいろな人たちに出会う。ある中年の外国人と会ったときニコッとされたので、前に出会ったことがあったかもしれないと思い、Did I meet you somewhere before?と聞いてみた。すると、Yes, I did, of course.と言ってまたニコッとする。名前を知りたいと思って、I'm not sure I remember your name exactly. May I ask your name again?と聞いたところ、唇を丸め、口を大きく開けてJoyce. Joyce Cunningham, but Joyce is just fine.のように笑顔で答えてくれた。

私は、Joyceの言い方に印象づけられた。日本語では「ジョイス」で済ましてしまっているが、実際の英語はもっと強弱が激しい。一般には音節を強弱で仕分けしているが、それだけではなく、1つの音節の中でも出だしに相当な力を入れて言い、終わりはずっと力を弱めて言う、強弱のリズムを感じるのである。

英語の二重母音は出だしの母音が強く後の母音が弱いので、「主音＋副音」という分け方をして、例えば、日本語の「ハイ」と英語の“Hi”とは基本的に異なることを英語の教室で指導する。しかし、母音の前につく子音についてはあまり取り上げないせいか、日本語の英語学習者の意識はあまりのぼらない。Joyceの強勢はJから始まるわけであるから、Jによって示される子音、つまり、[dʒ]は本人の発音のように相対的に強く発音されることになる。日本で発行されているほとんどの英和辞典では、母音の上に強勢を示すアクセント記号があるので、学習者とにかく母音だけが強く発音されると思いがちである。

しかし、実際は、出だしの子音と母音の両方が強く発音される。その特徴を表すには、日本人英語学習者にはIPAの表記よりもカナ表記のほうが良いのではないと思われる。[dʒɪs]では[dʒ-]の部分が強いかどうかIPAでははっきりしないので、むしろ近似的なカナを使って「デュオイス」と表した方が英語の実体にむしろ近いのではないかと考えられる。「ジョイス」ではジのあとに拗音のヨ(yo)があるため前舌が高くなって円唇が難しくなり、また途中でy[j]の音が介入するために英語らしさが出せなくなる。

どうせ英語は外国語だから、日本人が英語らしく発

音しなくても通じればよいという主張をされる人も少なくない。しかし、[dʒɪs]はわずか1語であるが、その中に英語の特徴である円唇運動と二重母音性が含まれていることを知れば、この語を手がかりに、円唇を伴う、page, orange, chair, church, fish, usual, realなども同じく円唇を伴う音であるし、また、toy, oyster, late, note, ear, hair, tourなども二重母音であることを考えると、たとえ、1語でも英語という一つの体系を持った言語の1つの現れと見なさねばならないような気がする。

さらに、betweenやEnglishなどのように音節の頭に子音が二つつくケースが多いので、どこで区切るかという問題が関わりを持ってくる。音声的には

bet-ween, Eng-landと区切るのは誤りで、

正しくは、be-tween, En-landと区切らねばならない。大学生でそのことがよく理解しているのはあまりいないのはやはり依然として文字中心の学習が行われ、ことばを耳で読む習慣が身についていないことが実体ではないかと思われる。

しかし学生の誤りを指摘しているだけでは何も生れないので、容易にこれらを理解できるような工夫が必要になる。be-tweenのように綴るのも役立つが、一目瞭然となるのはカタカナによる表記である。

「デュオイス」、「ビ.トウィーンズ」、「イン.グランド」などの表記をIPAに併行して表すれば、日本人が英語学習するときに大いに役立つであろう。日本語のカタカナの柔軟性を指摘されたのは、東北学院大学教授の故佐藤茂男氏であった。依然として、カタカナは英語の学習の弊害となると拘り定規的な考えが支配的である。英語発音表記学会は、近似カナ表記併用の利点を発表し、すでに数社の出版社でも実際に使われ始めている。遅れた英語の発音教育を世界水準に高めるには母語の活用がもっとも近道である。個人的には日本語を知らないで書かれた外国語教育論は日本人の言語潜在力を活性化しないのではないかと考えている。

(聖徳大学教授)

Joyceの発音は「デュオイス」

島岡 丘

第54回 ~視察研修コースのご案内~ フランクフルト・ ブックフェア

会期 /
2002年10月9日(水)
~10月14日(月)

会場 /
フランクフルト国際見本市会場

テーマ国 /
リトアニア

- 今年で54回目を迎えるフランクフルト・ブックフェアのテーマ国はリトアニアです。
- 一昨年よりコミックセンターが新設され、又、今回は日本の学術的な展示が充実した内容になります。

◆コース内容◆

- ①ブックフェアとイタリア視察：フランクフルトの後、ベネチア、フィレンツェ、ローマを巡ります。
- ②ブックフェアとギリシャ・トルコ視察：フランクフルトの後、古代ギリシャ文明の遺跡と東西文化が融合するトルコ文明を視察します。
- ③ブックフェアと南仏プロバンス視察：フランクフルトの後、フランス・コートダジュール地方からプロバンス地方を周遊します。最後にパリにて複合型書店を視察します。

◆旅行代金◆

- | | |
|---------------|---------------------|
| Aコース／478,000円 | } 各コースとも、添乗員が同行します。 |
| Bコース／598,000円 | |
| Cコース／528,000円 | |

※日程を詳しく記載したパンフレットをご用意しております。下記担当までご連絡をお願いします。

企 画：(社)出版文化国際交流会

〒101-0064 東京都千代田区猿樂町1-2-1 新日貿ビル6F
TEL. 03-3291-5685 FAX. 03-3233-3645

お申し込み・お問い合わせは



(株)ジェイティービー海外旅行虎ノ門支店

(旅行業務取扱主任者：池田 勇)

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-26-5虎ノ門17森ビル7階

TEL. 03-5512-0536 FAX. 03-5512-0528

営業3課 担当：山田・小山・阿部 e-mail: mio_yamada@ktr.jtb.co.jp

◎出版ツアー専用のホームページを開設しました。www.jtb-kaitora.com/book